



講演中の石橋さん

26.3.15 石橋学講演会

感想ノート

発行：ジャーナリズムを考える市民連絡会とやま

ジャーナリズムを考える市民連絡会とやま
結成6周年記念講演会

ヘイトと闘う報道とメディアの責任

2015年以来繰り返された川崎市で起きたヘイトデモ・ヘイトスピーチに、自ら立ち上がり声をあげ続け、被害に遭った人々に接する中で、差別をなくす当事者として差別をなくすために書くことと自らに課し、記者活動を通じてきた石橋記者に、昨年夏の参院選からの排外主義が横行し始めた時代における新聞記者の責任について、お話をいただく予定です。

講師 石橋学さん / 神奈川新聞編集委員

1971年生まれ、神奈川新聞記者出身。1994年神奈川新聞に入社。報道部の記者、デスク、編集・ベイスターズ（編集局 DA・NA・ベイスターズ）の席記者などを経て、2018年から川崎支局編集委員。ヘイトスピーチの問題を長年取材し、共著に「ヘイトデモをとめた街 川崎・板本の入江」(時代の正体 vol.1-3) (現代思潮新社)、「解れ」ではなく「なれ」(川崎・板本の入江) (現代思潮新社)、『大分県』を主とし、長期連載「時代の正体取材集」として、平野・協同ジャーナリスト組合・奨励賞 (2015年)、日本ジャーナリスト会議 (JCN) 賞 (2016年)、一連の反ヘイト報道に対して、新聞労連ジャーナリスト大賞・特別賞 (2021年)。



日時 3月15日(日) 13時半～15時半

会場 サンフォルテ 303/304

参加費 / 資料代含む 1000円 / 高校生以下無料

主催 ジャーナリズムを考える市民連絡会とやま
連絡先 090-8701-6816

- ・市民運動の中でメディアの責任は大きい。富山県が右寄りなのに、そして富山市が特にひどい。メディアの教育が市民の質を落としている。学校教育が一番なのだが、日本の現状はますます世界に通用しなくなるほど閉鎖的だ。あきらめずに子どもたちに教えようと思う。
- ・ヘイトへの気持ちが伝わってきた。
- ・大変学びが多く、改めてヘイトとの闘い、差別をなくす闘いの継続が必要と感じた。以前行政側にいた立場として…複雑な…いや大反省です。思っているでもできなかった分、今こそ闘うことの大変さ。孤立させてはいけないという職場の雰囲気と、石橋さんの本気度が神奈川新聞のすばらしいところですね。
- ・記者として悩みも明かしてくださりご活動に一層引き付けられました。現状に打ちのめされてしまうのですが、諦めたらだめだなと思います。ヘイトスピーチとする側に誰が資金をだしているのか、なぜ参加する人がいるのか、研究が必要と思いました。
- ・多くの連絡会などがあって頑張っておられることを知りました。頑張ってください。
- ・クルド人、中国人などに、「強く差別感持っている」友人がいます。生活保護、暴力のこと等、メディアの公平・中立という言葉に惑わされず、マイノリティの人が暮らし易い生き易いことが大切なことを思いました。フロアからの発言が講演を豊かなものにしてくれました。
- ・高市首相の記者会見の時、TVでも見ましたが、統一教会・裏金議員について、誰一人の記者も質問しませんでした。おかしいと思います。この問題は国民の誰もが知りたいことだと思いますが、もしかしたら、質問の内容まで、統制されているのでしょうか？記者も自由がないのでしょうか？
- ・正しい真実を訴える、権力を批判するメディアの役割がますます重要になっています。メディアへの期待・応

援含めて頑張ります。人権擁護の視点で頑張ってください。ヘイトの根源も問うべきですね。

- ・中学生の動画、チェさんの投稿「安心して紙面を見ることができるか」被差別者の声がとても心に残りました。
- ・大切なことや真実を伝えることは、メディアに求めることです。今政治権力に媚びることが多くあり、はっきりとヘイトを止めろと意思表示することが大事で、一人一人の小さな力で、この世の中を今の世の中を変えていくようにしたいです。
- ・闘う報道機関やジャーナリストが減っている中、敬意を表します。外国人への差別（選挙権がないとか、就職に国籍要件が必要とか）があるのはなくしていくべきと考えるが、高市政権や参政党の台頭の中、難しくなっている。諦めず、連帯して闘っていきたい。若者世代との連携はどうしたらできるのか、と思う。



差別主義者が神奈川新聞社前で街宣している時に「石橋記者がんばれ」のプラカードを持つ市民 (出典：講演パワーポイント資料)